

産業構造審議会製造産業分科会車両競技小委員会（第21回）

議事録

日時：令和7年12月17日（水）14:00～16:30

場所：経済産業省本館17階第1特別会議室及びオンライン開催

出席者：

山本委員長、奥野（史）委員（Web参加）、奥野（美）委員（Web参加）、藤岡委員、松田委員（Web参加）、山下委員、秋谷オブザーバー、浅野オブザーバー、今成オブザーバー、川島オブザーバー、木戸オブザーバー、中野オブザーバー、平石オブザーバー（Web参加）、安オブザーバー、渡部オブザーバー（Web参加）

議題

1. 競輪事業の第3次中期基本方針（案）について
2. オートレース事業の第3次中期基本方針（案）について

○成田補佐 事務局の車両室・成田でございます。

それでは、定刻となりましたので、産業構造審議会製造産業分科会車両競技小委員会を開会いたします。

本日は、御多用のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。会場には山本委員長、藤岡委員に御参加いただいております。加えて山下委員が少し遅れての御参加となる見込みでございます。また、オンラインで奥野史子委員、奥野美奈子委員、松田委員に御参加いただいております。

また、業界関係団体からオブザーバーとして、公益財団法人JKA 木戸会長、同じく公益財団法人JKA 浅野業務執行統括役、安業務執行統括役、全国競輪施行者協議会 今成理事長、全国小型自動車競走施行者協議会 秋谷事務局長、一般財団法人オートレース振興協会 川島理事長、一般社団法人全日本オートレース選手会 中野会長、以上の業界団体の関係者の皆様につきましては、会場にお越しいただいております。また、一般財団法人東日本小型自動車競走会 平石会長、一般財団法人西日本小型自動車競走会 渡部会長、以上の業界関係団体の皆様につきましては、オンラインでの御参加となります。

なお、一般社団法人日本競輪選手会 安田理事長におかれましては、どうしても御都合

がつかず、本日御欠席となります。

それでは、開会に先立ちまして、伊吹製造産業局長から一言御挨拶をいただきます。

○伊吹局長 皆様こんにちは。製造局の伊吹でございます。今日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございました。

今日は、競輪・オートレースの第3次中期基本方針（案）について皆様に御議論いただく予定とさせていただいています。

売上げはインターネット販売が増加して、今、堅調に推移していると思います。

この先の5年間、どのようにやっていくかということですが、しっかり足場を固めて、社会的な認知と理解の増進を含めた将来にわたる事業継続の基盤をしっかり固めて、皆さん、公営競技を通じて社会貢献と地方財政の健全化という大きな使命を果たし続けていただいていると思いますし、今年は万博もありまして、その中でこの業界の皆様には大変大きな貢献をしていただいたと思っていますので、この場を借りて、改めてお礼を申し上げたいと思います。

前回5月に会合があったのですが、そのときに、それぞれ競輪・オートレースの存在意義とかあるべき姿、今後どのように取り組んでいったらいいのかということで、ミッション、ビジョン、バリューの形で骨子をお示しさせていただいています。委員の方々から様々御意見いただきましたので、それを踏まえて、今日事務局からまた説明させていただいて、御意見をいただければと思います。

ぜひ活発な御議論いただくことをお願いいたしまして、簡単ですが、挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○成田補佐 ありがとうございました。ここで伊吹製造産業局長は、所用により退席させていただきます。

（伊吹局長退席）

続きまして、当委員会の取扱いについて御説明いたします。これまでと同様にペーパーレスで実施いたします。メインテーブルの皆様におかれましては、お手元のiPadとスクリーンで資料を御覧ください。オンラインで御参加の奥野史子委員、奥野美奈子委員、松田委員とオブザーバーの皆様におかれましては、事前に事務局からお送りしております資料をお手元で御覧ください。

資料は、議事次第、委員名簿、座席表、資料1（事務局説明資料（前回審議の振り返り））、資料2-1（競輪第3次中期基本方針（案））、資料2-2（競輪第3次中期基本方

針（案）について）、資料3-1（オートレース第3次中期基本方針（案））、資料3-2（オートレース第3次中期基本方針（案）について）となっております。お手元のiPadの操作や資料について、必要がありましたら事務局までお知らせください。

また、本日の資料及び議事内容は公開となり、審議の様子はインターネットで中継されます。オンラインで御参加されている奥野史子委員、奥野美奈子委員、松田委員、一般財団法人東日本小型自動車競走会 平石会長、一般財団法人西日本小型自動車競走会 渡部会長におかれましては、御発言のときのみ、マイクとカメラをオンにさせていただきますようお願いいたします。

なお、議事要旨及び議事録については、小委員会後、速やかに公開したいと考えております。

以上で説明を終わります。

小委員会の取扱いについての説明は以上となります。

それでは、以後の進行を山本委員長にお願いしたいと思います。

○山本委員長 ありがとうございます。それでは、本日の議事に入りたいと思います。

前回は5月に開催いたしまして、競輪・オートレースの第3次中期基本方針の骨子（案）について御審議いただきまして、御了承をいただいたところでございます。

今回は、前回の御議論を踏まえて作成いただいた方針案について御審議いただきます。まずは、前回の当委員会での審議の振り返りにつきまして、事務局よりお願いいたします。

○須藤室長 車両室長の須藤でございます。私から、前回御了承いただきました競輪・オートレースの第3次中期基本方針の骨子（案）に関して、骨子と各委員からの主なコメントについて、振り返りをさせていただければと思います。

前回は、競輪・オートレースともに、まずは第2次中期基本方針の総括をした上で、第3次中期基本方針については、今後の社会環境の変化、例えば人口減少、人手不足、物価高騰、DX、インバウンド、コンプラ意識の高まり等々の変化を踏まえて、存在意義、ミッション、あるべき姿、ビジョン、そして、あるべき姿の実践に向けた取組、バリューという観点で第3次中期方針の骨子（案）について御説明し、委員会にて御了承いただいたというところであります。

まず事務局資料の2ページ目になります。

まず、競輪でございます。存在意義のところですけども、競輪開催を通じて人々の心を動かす非日常、これはドキドキ感やワクワク感ということだと思いますけれども、これ

を提供して、その売上げの一部を社会に還元することにより、地域の活性化と社会課題解決に寄与するという一方で、競輪事業は社会貢献と地方財政の健全化のために存在しているということを確認するものであります。

そして、あるべき姿、ビジョンになりますけれども、社会やお客様の信頼の下に、いわゆる公営競技からメジャースポーツとしての地位を確立させて、競輪の価値と持続性を追求し、社会貢献を継続し続けるというものでございました。

最後に、あるべき姿の実現に向けた取組ということで、具体的には、この後JKAから説明がありますけれども、今回は4つの柱立てを行いました。

1つは、社会還元の浸透ということで、競輪の最大目的が社会貢献であることの世の中への浸透。顧客の増加とエンゲージメントの強化ということで、人口減少等を見据えたイメージアップ、顧客の引き込み、結びつき、つなぎ止めの強化といったもの。それから、魅力的なレースの提供ということで、顧客の流入、定着のための魅力的な商品開発、スター選手の育成、そういったもののプロモーションといったことなどがありました。あと、持続可能な競輪の運営ということで、これは守りの部分になりますけれども、業界のコンプライアンスやインフラ整備をはじめとするレース環境の整備、そして選手の獲得や養成ということの4つの柱を立てたところでございます。

次のページに行ってください、オートレースになります。

存在意義は、競輪と同様、事業本来の目的の再確認、明確化ということでした。

そして、あるべき姿としては、競輪と少し異なりますけれども、さらなる市場拡大による安定的なオートレース事業の運営、それによる社会貢献の実施ができる状況ということで、しっかりとした基盤づくりに重点を置くというものでございました。

そして、あるべき姿の実現に向けた取組の4本柱になりますけれども、地方財政への貢献と社会還元の浸透、これは競輪と同様になります。そして、事業体制の改編、オートレースの持続可能性のために、オートレース業界全体の事業体制の見直しをしていくということ。オートレースのリブランディング、ロゴやスローガンは、これまで変わっていませんけれども、今回、オートレースの魅力を再整理した上で、市場拡大戦略におけるメッセージを刷新するというもの。それから、認知度向上と顧客エンゲージメント強化による市場拡大ということで、これは競輪同様、顧客の引き込みや結びつき強化、そしてつなぎ止め、そういった仕組みづくりを行っていく。こういった4つの柱が立ったところであります。

次のページをおめぐりください。3ページ目になります。

次のページ以降、前回審議における委員の皆様からの主なコメントをまとめさせていただいております。

構成について御説明しますと、ページの左側に項目とございますけれども、公営競技の役割、広報戦略、持続可能な競輪事業運営のために、それからその他ということで、4つの項目に分けて、その中の各視点が細かくありますが、それに対応する委員の皆様のコメントを配置しております。

ちなみに、この写真は、今までの業界の取組イメージということで、これらに対して各委員からコメントをいただいたというところになります。

簡単に御紹介させていただきます。

まず最初、公営競技の役割ということで、地域振興という視点がございました。これは競輪やオートレースの事業収益を財源として、地域振興を各自治体が実施しているわけですが、そういった施行者意識の高揚を図るために、成功事例などあれば共有し、そして広報をするべきではないかという必要性について。

それから、広報戦略の中のプロモーションについては、競技場での多様な楽しみ方の提供とそのPRの重要性、それと、世界大会で金メダル等を取って活躍する優秀選手の積極的な広報によって、メジャースポーツとしての認知度を向上させるべきではないかといったコメントがございました。

それから、その下に行って、社会還元実績のPR拡充ということで、検診車だけではなくて、実はこんな支援もしているのですよということで、そういった取組を積極的に広報していくべきではないかという御意見がありました。

それから、一番下がインバウンド対応になりますけれども、場やホームページでの多言語化など、そういった表記に加えて、インバウンド対応というのは非常に時間がかかるものだという御指摘もありまして、業界としての取組方針や、地道なインバウンド戦略の必要性などについてコメントをいただきました。

もう一枚おめくりいただきまして、次のページになりますけれども、持続可能な事業運営のためにということで、事業運営の方針について、第1次中期基本方針、第2次中期基本方針を引き継いだ成長感ある内容や取組になっているということで、同調いただけるコメントがございまして、背中を押していただいたというような状況になっております。

それと、選手の獲得・育成ということでは、担い手である選手の確保に向けた裾野の拡大策の必要性、それとスポーツとしての競輪をアピールするのであれば、こういった選手

育成において、サポート体制が非常に充実しているということも積極的にPRしていくべきではないかというコメントをいただきました。

それから、選手の活躍の環境整備ということで日々レースがあって、そのレースがどんどん増えてきたという状況を踏まえまして、選手負担への配慮ですとか、最近のガールズケイリンの台頭に見合った環境整備、レースの構築といったことを考えていくべきではないかというコメントをいただきました。

そして、その他ということで、これはオートレースになりますけれども、カーボンニュートラルへの対応ということで、オートレースの次の燃料の最有力候補ということで、合成燃料というように御説明をしたと思いますけれども、決まったのであれば、その早期導入に向けた着実な検討と情報発信をやっていくべきではないかというコメントをいただきました。

最後に、ケイリンアドバンスの新しい商品を開発していつているところですが、そういったレビュー、あと、時間帯や日数拡大などをやっていつているところで、そういった日々の状況を把握していくことが必要ではないかといったコメントがございました。

以上が前回の振り返りになります。

もう一枚おめくりいただいて、次のページ以降は参考資料になりますけれども、前回5月からの業界の進捗について簡単に御報告させていただきます。

前回5月だったのですけれども、現在12月ということで、上半期までの実績をまとめております。

まず競輪ですけれども、2024年度は1兆2,500億ということだったのですけれども、今年の9月、2025年の上期で7,380億円の売上げということで、前年同期比プラス18%ということで好調を継続しております。

もう一枚めくっていただいて、次はオートレースになります。

2025年の上期は622億円ということで、前年同期比で7.2%ということで、これも好調を継続しておりまして、目標の1,200億円達成が見えてきたというところにあります。

もう一枚おめくりいただいて、オートレースの各場の売上げの収益の推移になります。このデータの中では、緑色の2024年度のデータが入っております。なぜお示ししているかといいますと、前は川口オートの収益改善はどうなのかということで、施行者において、警備、清掃、それからお客様が入るスペースの縮小など、いろいろ経費削減策を行っていたわけですが、その結果、2023年の0.7億を底にすることができたというこ

とで、2.8億に収支がプラスに傾いたということで、我々としても安堵しているところですが、1つ御報告しておきたいと思います。

それから、もう一枚めくっていただいて、最後のページになりますけれども、広島競輪場が、アーバンサイクルパークス広島として生まれ変わりました。見てのとおり、ホテルも含め、様々な機能が備わった複合施設でして、BMXですとかスケートボード、バスケットボールといった都市型スポーツを融合させた、なかなかほかにはない革新的なサイクルスポーツ拠点として生まれ変わっております。そして、地域のスポーツ振興と地域活性化の両面に貢献するのではないかとということで期待が寄せられているところであります。

この施設は、前にも当委員会で議論がありましたが本場に足を運んでもらう意味、つまり多様な楽しみ方を競輪場で提供すべきではないかということでコメントいただいているところですが、まさにそれに応えるものの1つとして考えられますので、今回御紹介させていただきました。

事務局からは以上になります。ありがとうございます。

○山本委員長　　ありがとうございました。半年間の進捗ということで付け加えていただきました。

続きまして、議題1、競輪事業の第3次中期基本方針（案）について及び議題2、オートレース事業の第3次中期基本方針（案）について、JKAより続けて説明をお願いいたします。

○木戸会長　　JKAの木戸でございます。

では、まず最初に、競輪の第3次中期基本方針について御説明いたします。

概要を動画にまとめましたので、まずそちらを御覧ください。

（映像放映）

○木戸会長　　ありがとうございました。ここからは、投影しておりますパワーポイントの資料を基に説明させていただきます。

それでは、3ページをお願いいたします。今回の第3次中期基本方針では、事業基盤の強化と社会受容性の向上の2つを基本コンセプトとして掲げています。これまでの第1次、第2次の中期基本方針を策定した段階では、売上げや収益が厳しい状況が続き、収益の確保と社会貢献の最大化が重要なテーマでした。しかし、コロナ禍を契機としたネット投票

の伸びもございまして、現在は事業が好調に推移し、安定的な成長段階に入っています。そのため、今後も成長を持続できるよう、第3次中期基本方針では、改めて事業基盤、いわゆる経営資源を見直し、足場を固めていくことを重視しています。

あわせて、昨今は、依存症問題やオンラインカジノなど、違法ギャンブルの増加により、公営競技に対しても厳しい目が向けられています。競輪が社会に必要な存在と認識され続けるためには、社会受容性を高める取組がこれまで以上に重要となります。

こうした背景から、この2つのコンセプトを軸に据えております。競輪の存在意義、あるべき姿と、また、そのあるべき姿の実現に向けた取組として、4つの柱を設定しております。

4ページを御覧ください。こちらにございますように、社会還元の浸透から持続可能な競輪の運営まで、ビデオでも御紹介しましたが、この4つを柱に据えております。

それでは、それぞれの柱について順に御説明いたします。

5ページをお願いいたします。

1つ目の柱、社会還元の浸透の①番、時代のニーズに即したメニューによる支援でございます。

競輪の補助事業は、その写真にありますように、地域活動やeスポーツや工業高校など、主に若者を対象とした支援、さらには介護設備、災害支援など、幅広い社会課題の解決に貢献してまいりました。特に特殊浴槽のように、現場のニーズを的確に捉えたメニューは、申請件数が大きく増加しております。

今後も子ども支援、障害者支援、災害関連など、社会情勢を踏まえ、新たなメニューを柔軟に検討し、未来の補助事業の顔となるコンテンツを開拓してまいります。

6ページをお願いします。②番目としまして、競輪の社会的価値の発信の強化です。

競輪の補助事業は、今までも価値や意義を発信してきましたが、社会全体への浸透にはまだ至っていないという状況でございます。今後もPRを継続しつつ、ストーリー性を持たせ、効果的に情報を発信してまいります。

今、ストーリー性と申し上げましたが、ストーリー性とは、競輪の補助事業がどのようなところで活用され、その支援先で実際に利用される方々にどのようにお役に立っているのか、利用者の方のお声などを取り上げるなどして、分かりやすくお伝えしていくようにしたいと思っております。

7ページでございます。③番の競輪による地域活性化への貢献です。

競輪の売上げは自治体の財源に還元され、公共施設の整備や地域活動などに活用されています。このページでは、そのうちの一部として、写真にございます4つの事例を御紹介しておりますけれども、今後もこうした地域貢献の事例を自治体の広報等と連携しながら発信しまして、地域社会における競輪の価値をさらに高めてまいります。

以上が最初の柱、社会還元の浸透の取組内容でございます。

では、8ページをお願いします。2つ目の柱、顧客の増加・エンゲージメント強化でございます。

そのうちの①番としまして、競輪のイメージアップです。第2次中期基本方針で競輪のブランディングを強化し、CMなどでメジャー性やスポーツ性をアピールしてきました。それに加え、世界選手権で2大会連続金メダルなど、日本代表として国際大会でも優れた結果を出している競輪選手の活躍ですとか、次の2028年のロサンゼルスオリンピックにも焦点を合わせて、積極的にPRして、認知を高めてまいります。

9ページでございます。②のポテンシャルエリアでの認知向上。競輪のお客様ですが、今までは競輪場や場外車券売場のある地域を中心にお客様の層が広がってきましたが、ネット投票が広がったことで、競輪場がない地域にもファン層が生まれています。そのような地域をポテンシャルエリアといたしまして、近くに競輪施設のない地域でも、補助事業や選手募集などを軸とした認知向上の取組を展開してまいります。

10ページでございます。国際的認知度向上のための情報発信です。

競輪は日本発祥のプロスポーツであり、かつ日本名「ケイリン」のままオリンピックの正式種目になっていて、日本の競輪選手も国際大会で大変活躍しており、徐々にではありますが、海外の記者による競輪に関する書籍の出版や雑誌取材が増えています。

今後は、海外を意識した情報を発信するほか、外国人観光客の動向など、基礎情報を調査してまいります。

11ページでございます。④番の来場価値向上・ファン交流の促進です。

コロナ禍以降、インターネットから競輪に参加するお客様が増えましたが、ネットから入られたファンの方々の中には、実際に競輪場に行ってみたいというニーズが増えてきております。そういった方のために、あの角度のあるバンクを歩いたり、ふだん見ることができないバックヤードツアーなどの機会を設けてまいります。さらに、選手やファン同士の交流機会を増やすことで、満足度を高める取組を行ってまいります。

12ページでございます。⑤番の情報コンテンツの強化です。

この情報コンテンツの整理・体系化につきまして、そちらにございますように、幅広い要望に応えるべく、様々なコンテンツを掲載したサイトを御用意しておりますが、これだけ数もあり、内容が豊富なだけに、必要な情報にアクセスしづらいという課題も生じてまいりました。これらの動線を整備して、お客様が欲しい情報に迷わずアクセスできるように整備してまいります。

また、依存症対策につきましても、引き続き確実に取り組んでいきます。

以上が2つ目の柱の取組内容でございます。

13ページお願いします。3つ目の柱、魅力的なレースの提供。そのうちの①番のガールズケイリンの魅力向上でございます。

ガールズケイリンは、そちらにございますようにリブランディングを行い、また、女子G Iの創設によりまして、売上げ、賞金、選手数が順調に伸び、プロスポーツとしての地位を着実に築いております。

今後は、レース体系や付加価値をさらに高め、女子レース全体の活性化につながる施策やプロモーションを展開してまいります。

14ページお願いします。②番で多様な顧客ニーズに応じた戦略的なレースの提供・情報発信です。

競輪では、モーニングからミッドナイトまで、お客様の御都合のよい時間に参加できる商品ラインナップを用意しております。また、平日の昼休み時間にアクセスが増えるなどのニーズも見えていますので、お客様のニーズに沿えるような商品配置を進めてまいります。

以上が3つ目の柱、魅力的なレースの提供の取組内容となります。

15ページでございます。最後の4つ目の柱、持続可能な競輪の運営です。そのうちの①番、公正安全かつ円滑な運営への取組強化です。

コンプライアンスは、公正安全を旨とする公営競技にとって当然のことでありまして、今後も継続して啓発に取り組めます。

また、持続的に運営するためには、社会情勢や環境の変化に対応していくことが重要で、夏の暑さに対する対策ですとか、人口減少などの課題にも対応して、持続的かつ円滑に運営ができるように取り組んでまいります。

16ページでございます。②番で、持続的な運営のためのインフラ整備です。

現在、全国の競輪場で施設改修が進んでおり、大規模な改修を行う競輪場も多くござい

ます。また、その改修において、女子の環境整備も積極的に取り組み、選手からも喜ばれております。施設の整備・改善指針を定めた競輪開催運営ガイドラインに基づきまして、選手が競技に集中できる環境整備を今後も継続してまいります。

また、競輪開催の基本システムでありますV I S、ビスと呼んでおりますけれども、こちらにも2028年度にリニューアルいたします。今後も安定稼働はもちろん、システムの更新により、効率化や新たな取組にチャレンジできるように開発に取り組んでまいります。

17ページでございます。③番の新規選手の発掘と育成です。

少子化により自転車競技人口が減少し、養成所を技能試験で受験する志望者が減少傾向でございます。対策といたしまして、競輪場を地域の自転車競技者育成拠点として活用するほか、他競技からの転向も含め、多様な入り口を整備いたします。

また、他のスポーツ団体と連携して、他競技のアスリートのセカンドキャリアとなるような取組や、練習環境の整備も進めてまいります。

以上が最後の4つ目の柱、持続可能な競輪の運営の取組内容です。

18ページ、取組の推進についてでございます。

この第3次中期基本方針の3年目に当たる2028年度は、競輪80周年という大きな節目になります。また、ロサンゼルスオリンピックの開催や、先ほど申し上げた競輪の基幹システムでありますV I Sの更新など、競輪が大きく変革する年となっております。この節目に向けて、今までの取組実績をさらに積み上げ、次の時代につながる成果を出していきたいと考えております。

19ページでございます。こちら、参考と書いてございますが、ギャンブル等依存症対策への取組について御紹介申し上げます。

競輪業界では、ギャンブル等依存症対策推進基本計画に基づき、第3次中期基本方針においても依存症対策に取り組んでまいります。

まず、広告・宣伝の在り方では、過度に射幸心をあおる表現を用いないこと等を定めた指針を策定し、運用を徹底するとともに、映像やグッズ、掲示物、ホームページ等でギャンブル等依存症について啓発を行っております。

アクセス制限等としまして、20歳未満の購入禁止の徹底、本人、家族申告による入場制限、インターネット投票におけるアクセス制限や購入限度額の設定を実施しています。相談・治療につなげる取組としまして、依存症に取り組む団体への経済的支援、相談窓口の設置、カウンセリングセンター等の紹介、セルフチェックツールの普及に加えまして、

ホームページ上で、これらの相談、支援情報を掲載して、早期発見、早期介入につなげてまいります。

最後に、依存症対策の体制整備としまして、担当者の選任、問合せ対応マニュアルの策定、職員、関係会社への研修を実施し、取組を強化してまいります。

以上の取組を通じ、依存症対策を引き続き着実に推進してまいります。

20ページお願いします。2030年度までの売上予測でございます。

こちらのグラフ、表が今後の売上予測となります。他の公営競技の状況を見ましても、開催日数が上限に達するとともに、売上げが鈍化してきております。競輪でも日数が上限に近づいておりまして、成長率は今後鈍化が予測されます。それらを考慮しまして、2030年度売上げを1兆9,000億円と予測いたしました。

最後、21ページでございます。この競輪第3次中期基本方針における売上目標でございます。

4つの柱を中心とする取組を実施し、プラスして目標は2兆円と設定しました。競輪の過去最高売上を更新するかなり挑戦的な設定ですが、具体的に取組を業界で実施しまして、チャレンジしていきたいと考えております。

以上で競輪の第3次中期基本方針の説明を終了いたします。

○山本委員長 ありがとうございます。引き続きまして、オートレースの御説明をお願いいたします。

○木戸会長 では、続きまして、オートレースの説明をさせていただきます。

オートレースにつきましても、まず概要を動画にまとめておりますので、そちらを御覧ください。

(映像放映)

○木戸会長 ありがとうございます。それでは、投影しております資料に基づいて御説明させていただきます。

まず3ページをお願いいたします。こちら、オートレースも第1次、第2次中期基本方針を踏まえて、今回の第3次中期基本方針を作成いたしました。

この第3次中期基本方針では、オートレースの存在意義、ミッションと、あるべき姿、ビジョン、そしてその実現に向けた4つの柱、バリューとしまして、地方財政への貢献と

社会還元の浸透、2つ目が事業体制の改編、3つ目がオートレースのリブランディング、4つ目としまして、認知度向上と顧客エンゲージメント強化による市場拡大、これを骨子の段階で決めました。

4ページをお願いいたします。ここでは、その4つの柱に対する取組方針を整理しております。なお、骨子の承認をいただいた後、4つの柱には含まれない課題が明らかになりましたので、新たにその他という項目を加えて整理しております。この後、それぞれの柱と取組方針ごとに御説明させていただきます。

5ページをお願いいたします。1つ目の柱、地方財政への貢献と社会受容性の浸透です。それらの取組方針としまして、時代のニーズに即したメニューによる支援です。

この項目は、JKA補助事業のメニューについての内容でございます、競輪と同じ方向性でございます。補助金額、採択件数は年々増加し、福祉車両申請件数も増加して、社会的な支援ニーズの高まりに対応しております。

今後もこのような社会のニーズにマッチした補助メニューを検討し、未来の補助事業の顔となる取組を行ってまいります。

6ページです。2つ目の方針としまして、オートレースの社会的価値の発信強化です。

こちらは、JKA、オートレースの補助事業PRについて記載しております。基本的には競輪と同じ方向ですが、円グラフにあるとおり、オートレースの認知度は、「知らなかった」というものが半数を超えまして、残念ながら社会的な認知度が不足している状況です。

そのため、社会に貢献するオートレースのイメージ浸透に向けて、継続的な補助事業PRと効果的な情報発信に取り組んでまいります。

7ページお願いします。こちらはオートレースによる地域活性化への貢献です。この項目は、施行者による地域活性化に関する取組内容です。

各施行者では、オートレース場を地域に開かれた公共空間として活用し、地域行事やイベントなどを掲載しております。中央にございます写真は、その一例を掲載いたしました。

今後もオートレースの開催以外のこうした取組もPRしまして、施行者間の情報共有や情報発信を行い、地域の活性化に貢献してまいります。

以上が、最初の柱の地域財政の貢献と社会還元の浸透の取組内容となります。

8ページ目をお願いします。ここからが2つ目の柱で、事業体制の改編です。

まず1つ目の取組方針としまして、事業体制の改編です。グラフにあるとおり、無観客

のミッドナイト開催を中心に、開催日数を拡大してまいりました。その結果、売上は増加したところですが、一方で、ミッドナイト開催の拡大によりまして、運営環境が大きく変化し、これに対応した事業体制の改善が求められております。

この第3次基本方針において、売上データを活用した効果的な開催日程、また、発走時刻の最適化、選手制度の見直しなどを行い、効率的な運営体制の確立を進めてまいります。

9ページ目をお願いします。2つ目の取組方針としまして、魅力ある競走体系の構築です。

オートレースを取り巻く環境は、ミッドナイト開催の拡大や若年層の増加、さらに新人選手や女性選手の活躍など、大きく変化してきております。こうした変化を踏まえて、S G競走等の開催内容の整理、見直しを進めるとともに、実力ある新人選手が早期に活躍できる体制の検討や、ガールズ戦の魅力向上策の検討も行ってまいります。

以上が2つ目の柱、事業体制の改編の取組内容となります。

10ページをお願いいたします。3つ目の柱、オートレースのリブランディングです。

1つ目の取組方針としまして、ブランド刷新とイメージアップについてでございます。

オートレースに対するイメージは、左のグラフのとおり、ネガティブなものが上位を占める結果となっております。こうしたイメージの背景には、オートレースの魅力や面白さが十分に伝わっていないことが考えられます。

また、現在のロゴマークやコンセプトは、2012年に制定され、昨今のインターネットを中心とした若年層の感性に十分対応できていないと考えられます。このため、オートレースが本来持つ迫力や熱気をいま一度定義しまして、ブランド刷新を進めてイメージアップを図ります。

11ページをお願いします。2つ目の取組方針のオートレースの露出拡大によるブランド構築です。

オートレースは、公営競技の中でもレース場が少なく、認知度の低さが課題となっており、その向上が求められております。このため、デジタルプロモーションを活用して、特に初心者や若年層を意識した情報発信を強化して、オートレースに触れる機会を広げてまいります。

さらに、顧客の理解度に応じた分かりやすいコンテンツの整備やオートレースAutoRace. JP内の動線の改善などにより、必要な情報にスムーズにアクセスできる環境を整備してま

います。

なお、情報発信の拡大と並行して、ギャンブル等依存症対策にも引き続き取り組んでまいります。

以上が3つ目の柱、リブランディングの取組内容でございます。

12ページお願いします。4つ目の柱の認知度向上と顧客エンゲージメント強化による市場拡大です。

1つ目の取組方針としまして、新規顧客の定着促進です。

オートレースはミッドナイト開催を契機に、新規顧客が増えていますが、定着率の低さが課題となっております。そのため、初心者がオートレースを理解できるコンテンツの充実や、車載カメラ等の迫力ある映像を継続的にお客様に届けることで、オートレースの理解と興味喚起を図ってまいります。

また、SNS、ユーチューブなどを活用した情報提供に加えて、つながりや共感を意識した交流の場を設けて、新規顧客の定着促進を進めていきます。

13ページをお願いいたします。2つ目の方針としまして、本場への来場促進です。

新規顧客の多くは、インターネット経由での購買が中心で、本場への来場が減少しております。やはり本場観戦は、オートレースの本来の魅力を体感できる貴重な機会であり、来場はファン定着や地域活性化に直結する重要な取組でございます。

そのため、その写真にありますように、本場を体験型拠点として様々なイベントを開催し、また、来場者が心地よく過ごせるホスピタリティーを向上して来場促進を図ります。

また、前のページにも触れましたつながりや、共感を意識した取組で来場の促進を図ってまいります。

以上が4つ目の柱、認知度向上とエンゲージメントの取組内容です。

14ページをお願いいたします。ここがその4つの柱以外の課題としまして、その他という項目でございます。

その他の1つ目の取組は、新規選手の発掘と育成でございます。選手養成所では、募集要件の緩和や養成費用の無償化などに取り組み、少子高齢化が進む中でも、応募者はあまり減少することなく推移しています。

一方で、今後の競技の持続的発展を見据えると、単に応募者数を維持するだけでなく、教育訓練の質的向上と養成環境の整備が重要となります。このため、募集活動については、親和性のある団体との連携強化や、イベント出展の強化を行ってまいります。

また、選手養成においては、IT機器を活用した走行訓練など、さらに競技力の向上に取り組んでまいります。

その他の2つ目の取組方針の持続的な運営のためのインフラ整備です。

現在、各レース場では施設改修が進められております。先ほど13ページの御説明でもホスピタリティと申し上げましたが、より快適で魅力あるレース場づくりを推進してまいります。

また、選手が競走に集中できる環境の整備も重要であり、こうした取組を引き続き進めてまいります。

その他、次期オートレースシステムの要件定義や、AutoRace. JPの魅力向上に向けた取組も進めてまいります。

16ページをお願いします。3つ目としまして、カーボンニュートラルへの対応です。

カーボンニュートラルへの対応については、費用対効果や市場動向を踏まえた現実的な検討が必要と考えております。2030年以降に商品化が見込まれる合成燃料の導入可能性について、エンジンメーカーや石油元売会社と連携し、情報収集を進めてまいります。

以上が4つ目の柱とその他の取組内容でございます。

17ページをお願いします。こちら、ギャンブル等依存症対策への取組でございます。

こちらは、先ほどの競輪の資料19ページで御説明したものと同一内容ですので、中の一つ一つにつきましては割愛させていただきますが、オートレース業界においても、ギャンブル等依存症対策推進基本計画に基づき、今後とも依存症対策に取り組んでまいります。

18ページをお願いいたします。売上関係でございます。このページでは、オートレースの売上動向と、2030年度までの成長の見通しを立てております。

オートレースの売上げは堅調に推移しておりますが、開催日数は上限に達しつつある状況や、社会情勢の変化を踏まえると、将来的には緩やかな成長局面に移行していくと想定しています。

このため、売上目標額の設定に当たっては、成長率が緩やかに漸減していくと想定し、2030年度の売上げは1,300億円と予測しました。

19ページをお願いいたします。この第3次中期基本方針での売上目標でございますが、今申し上げました予測に基づきまして、2030年度の目標額を1,300億円としております。この目標の達成に向けて4つの柱を軸に、業界が一丸となって社会貢献の最大化を目指してまいります。

以上、オートレース第3次中期基本方針の説明を終了させていただきます。

○山本委員長　　ありがとうございました。競輪、オートレース、それぞれたくさんの中身でしたので、委員の皆様方もいろいろ気になるところ等々あるかと思います。

それでは、委員の皆様から御意見を頂戴したいと思います。本日は、名簿の順番に私から指名させていただきます。なお、オンラインで御参加されている奥野史子委員、奥野美奈子委員、松田委員におかれましては、私から指名をした後でマイクをオンにいただき、御発言いただければと思います。

それでは、名簿の順ということで、まず奥野史子委員、お願いいたします。

○奥野（史）委員　　大変分かりやすい御説明をいただきまして、ありがとうございました。

もう既に、先日11月の末に御説明いただきまして、その際にも御質問させていただいたものも少し重複する箇所があるかもしれないのですが、何点か気になったところを話させていただきます。

まずサステナブルな競技運営というところでいろいろ御対応いただいていると思うのですが、例えば会場で脱プラの推進ですとか、合成燃料に関しては今検討していただいているということです。それは進めていただいたらよいと思います。

この後、どんどん酷暑になっていくと思うのです。これから競輪・オートレースだけではなく、たくさんスポーツができなくなってくるのではないかと。特に冬の競技などは雪がなくなってくるので、冬季のオリンピックなどでも開催できる都市がなくなってくるのではないかとというような危機的状況に今、スポーツ界は動いていっている状況なのです。

その中で、この競輪やオートレースがサステナブルに今後ずっと継続していけるようにするために、例えば競輪場を屋内にするとか、今すぐというわけではないですが、長期的スパンで見たときに、今後どのような方向性で会場を設計していくのかであるとか、その辺りは御検討されたほうがいいのかなど感じております。

それと、様々な社会貢献活動が競輪・オートレースの目的でありますので、それをたくさんお取組されているということは、お話を聞いていますので、存じ上げているのです。これ、私ごとなのですが、日本財団さんのHERO sというアスリートが社会貢献を推進するという組織があるのですが、私はそのアンバサダーをやっております、先日もHERO sの集まりがあって、社会貢献をしているアスリートといろいろ意見交換しているのです。たくさんプロからアマまでのアスリート、現役アスリートや元アスリー

ト、現役をやめたアスリートの方々が——海外の選手は、社会貢献活動を昔から熱心にされていたのですけれども、日本の選手も今は本当に次元の高いところで、選手たちが自ら社会貢献をしていくという方向性がどんどん高まっているのです。

そういった中で、今、施行者さんによる社会貢献活動や補助事業というのはたくさんやっておられると思うのですが、アスリートが自ら今、例えば現役の競輪選手やオートレースの選手の皆さん、もしくは引退をした競輪選手、オートレースの選手の方々が自ら率先して、そういった社会貢献活動をしていく、それをこの補助事業やオートレース、競輪の予算を使って、どうやって社会に広めていくかと。

アスリートがやると何が良いかといいますと、やはり情報発信力が非常に高い。補助事業を淡々と進めていくというのはとても大事なことなのですが、そこにアスリートが加わって、それを発信することによって、本当に多くの方にリーチできると思います。今まで競輪やオートレースに興味のなかった方が、そこに興味を持つという意味では、アスリートの発信力をいかに活用していくかということも大いに考えられたらいいのではないかなと思っております。

あと、これは私個人的なことなのですが、当委員会に何年か来させていただいておまして、競輪というのはオリンピック種目でもありますし、自分がロードバイクも乗るので、どこか分かりやすいというか、近い存在ではあるのですが、オートレースというのは、バイクに私は乗らないということもあったりして、何かちょっと遠いのです。その遠さが何なのかというのが、自分の身近ではないということと、場が遠いということもあったりすると思うのです。多くの女性がそういった感覚なのではないかとふと思いました。なので、その距離感をどうやって埋めたらいいのかということを考える必要があるのかなと思っています。

もしくは、そもそも今後、いわゆる顧客拡大をして考えていくときに、あまり女性は考えていませんよということなのか、もしくは女性も拡大していくのであれば、ある意味、そこがすごく大きなチャンスでもあると思いますし、伸びしろにはなると思うので、そこをどうやって女性にリーチしていくかということを考えられたらいいのではと思います。とても漠然とした話になってしまって申し訳ないのですけれども、何かそこが本当に大きなチャンスなのではないかなと思いますので、その辺りを考えていかれてはどうかと思っています。

以上です。

○山本委員長　　ありがとうございました。大きく3点あったかと思えます。1つは、夏の暑さが非常に厳しくなっているというところでの暑さ対策のお話です。これはほかのスポーツでもということでしたので、その点、業界から取組の状況等を教えていただければと思います。

2つ目が、社会貢献の在り方です。今の補助事業、それから施行者さんが行っている事業がありますが、アスリート自身に対して、今後どのように考えていくかということかと思えます。

3つ目ですが、オートレースをより身近にする取組について御指摘があったかと思えます。それぞれ業界からお答えをいただければと思います。木戸会長、お願いします。

○木戸会長　　奥野委員、御意見どうもありがとうございました。

今いただいた3点につきましてです。おっしゃるとおり、最近の夏はもう40度に迫るような暑さで、競輪はモーニングからミッドまでやっておりますが、もちろん昼間もやっているというところで、この暑さについては、十分気をつけなければいけないと思っております。

我々競輪・オートレースとも1つだけありがたいのは、実際レースの時間が非常に短いということで、夏の日中も当然レースは行われるのですが、実際のレースの時間はおよそ3分程度というような形になります。そのレースに行くまでに、当然ウォーミングアップをしたり、また、レース後、クールダウンしたりするのですが、そちらについては、当然屋内で全部行えるような状況は整っております。

そういったことで言いますと、今何とか屋外の競技場でも実施はできているところがございます。あとは、走った後のクールダウンですとか、そこら辺の体調管理がしっかりできるように、今、施設改修も進んでいる中で、より快適に過ごせるような空間づくりといえますか、あとは冷暖房はもちろんあるのですけれども、そこら辺についてもしっかりと施行者さんと体制が整えるような形で進めていきたいとは思っております。

○奥野（史）委員　　ありがとうございます。そこで、今も無観客でレースをやっておられることも多いと思うのですが、観客の皆さんは暑くないのですか。例えば、陸上競技とかほかのスポーツのスタジアムは、実は観客がめちゃくちゃ暑いという状況にあるのですけれども、そういった方々はどうでしょうか。

○今成理事長　　全輪協からお答え申し上げます。

観客については、実際観客というのは今非常に減ってしまっていて、大体屋内で見ている方

が多いのです。先ほど木戸会長もおっしゃったように、レースは3分ですから、そのときだけ出て行って見て、観戦したら戻るといふのを大体皆さんやっていますので、そういう面であまり心配ないかなと思っています。

○奥野（史）委員 分かりました。ありがとうございます。

○秋谷事務局長 全動協から申し上げます。

車券売場等の屋内は全て冷房が効いておりますので、お客様が外に出ない限りは涼しい環境でレースを楽しめるというような状況です。ただ、観客席については、有料席は冷房が効いているのですけれども、一般の席は確かに暑いかと存じます。

以上です。

○奥野（史）委員 ありがとうございます。

○山本委員長 では、次の御質問等、続けてお願いします。

○安統括役 オートレースの安と申します。

選手の補助事業への関係の取組状況なのですけれども、中野会長にこの後お答えいただけるかと思うのですが、選手会がふるさと納税をしたり、あとは募金活動ですとか、そういった形をホームページ上で協力させていただいて、ここを公開しています。そういった活動をもう少し広げていきたいなと、今の御指摘については思っております。

また、選手が前面に立っていただくということで、ここ数年、各レース場で選手に来ていただいて、補助金の交付式をやっております。レース場に来ていただいているお客様に、皆様がお買いになった車券がこのような形で社会貢献されていますという形のアピールも含めて、レース場で交付させていただいて、補助の内定者につきましては、やはり競輪場、オートレース場にはいらしていない福祉関係の方が多いので、そういった方にも、例えば補助された車の原資がこういう形で生まれているのですよという話で、初めて知りましたという形の広報活動につながっておりますので、引き続き、そういったことについては取り組んでいきたいなと思っております。

それと、奥野（史）委員が、バイクが遠いという話なのですが、確かに乗らない方にとっては、競輪より自転車よりは遠いかと思います。そういった意味で、逆にレース場は少し少ないのですけれども、女性のファンの方が結構いらして、推しの選手を作って見ていただくなど推しの選手同士でのファンのグループ化といったところを、先ほどの中期基本方針で入れたような横のつながり、そういった形の展開をぜひしていきたいと思っております。

以上です。

○山本委員長　ありがとうございます。あと、中野会長からもお願いできればと思います。

○中野会長　現状、JKAと協力しながら、選手も参加しながら補助事業を行っていることもありますし、自分としましても、そういうことに関して積極的に協力していくことは重要だと思っていますので、これからもそういういろいろな意見を聞きながら、選手がどういう形で補助事業に参加して、どういう形で貢献できていくのか、しっかりその意見を伺いながら、選手も積極的に参加していきたいと思っています。

以上です。

○山本委員長　ありがとうございます。

○須藤室長　事務局でございます。選手会の安田理事長が来られていないので、事務局から簡単に御説明しますが、競輪の選手もいろいろなボランティアに参加しております。例えばサンタクロースに変装して、乳児院の子供たちを喜ばせに行ったりとか、福祉協議会へ車椅子の贈呈式に行ったりとか、あと、募金活動に選手自らが呼びかけて募金に参加していただくような呼びかけをしているとか、そういった小さいところから参加いただいているというような状況になっております。

以上です。

○奥野（史）委員　ありがとうございます。アスリートの方々は、セカンドキャリアとかネクストステージに、恐らくどこかのタイミングで現役をやめて移っていかなければいけないタイミングが来るので、そういったときに、やはり自分の存在意義であったり、アスリートであった自分だけではない、自分の価値というものを知るためにも、こういった社会貢献活動を現役の間にしておくということは、次へのキャリアラダーの中で非常に重要なことになってきます。自分が社会の中でどういう存在なのかを考えるという意味では、現役のときに社会貢献活動を自ら発信して、自ら動くことが次のステップにつながると思いますので、ぜひともそういった意味でも進めていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

以上です。

○山本委員長　貴重な御意見ありがとうございました。

私が言うことではないかもしれませんが、競輪・オートレースの両方を見ていて、どちらかという、オートレースのほうが本場に来られる女性の割合がずっと高いかなど

というイメージがあります。私が数えたわけではありませんけれども、今、だんだんその顧客が増えてきているというところで、競輪も女性のお客さんが増えつつあるかなという印象でございます。

それから、あと、選手のOBなどが競輪場で動物の保護活動みたいなイベントをやったりとか、そのようなことも現実に行われておりますので、今のお話は、また新たな取組を業界の中で考えていく貴重なヒントをいただけたのではないかと思います。どうもありがとうございました。

○奥野（史）委員　ありがとうございました。

○山本委員長　では、引き続きまして、奥野美奈子様、お願いいたします。

○奥野（美）委員　よろしくお願いいたします。これまで何回か参加させていただき、競輪・オートレースについて随分理解を深めさせていただけたかなと思っております。

第2次中期基本方針が終わろうとしており、次の第3次中期基本方針で求められるところ、社会還元の浸透と、特に認知度向上による魅力的なレースの環境と、お客様とのエンゲージメントを高めていくという実現に向けた取組を4つの柱でおまとめいただいていることの在り方も理解が深まったと思っております。

これまでの中で、特にこの万博を通じて、テレビでも競輪のCMを大変拝見いたしました。この会議に参加させていただいて、町なかを歩いていると、補助事業で出された福祉車両等を目にする機会が本当に増えたなと思っております。これは、とりもなおさず万博という1つの機会も含めて大変露出が増えたということと、私が皆様に教えていただいて知ったことによって、さらに自分で意識して見るようになったということなのだなと思っております。

そういう意味では、社会に向けて認知度向上を進めるべく、様々な計画を立てられているのを一つ一つ進めていただくということが、今後も選手にとってもプラス、事業にとってもプラス、そしてその結果としての社会還元もさらに進むということになるなと認識しております。

私からは、こういう認知度向上を進めていかれる中で、認知度のアンケート調査が、競輪とオートレースの資料中にそれぞれ円グラフで差し込まれておりましたが、これ、実は母数とかが全く一緒なので、オートレースだけで取られた、競輪だけで取られたということではなく、共に取られた資料だということ認識はよかったですでしょうかということをお聞きした上で、このアンケート調査を、これまでも多分定期的にとられていると思うの

です。

今後、様々な、新たな施策をこの中期基本方針で展開されていく中では、中期基本方針が終わられた時点で振り返るというよりは、大きな広報活動の転換などをされる際には、定点で毎年取られる等でどちらか、オートレースなのか、競輪なのか、今後はもしかしたらそれぞれの事業について聞かれるほうが、より広報活動の施策が生きた形になると感じました。所感みたいな言い方で大変恐縮なのですが、ぜひ一層の広報活動をと思っております。

2つ目が、先ほど来、奥野（史）委員からもお話がありましたが、私もこの選手育成の観点でいくと、若年層、高校生の選手であるとか、いわゆる子供たちがスポーツとしての競輪やオートレース——オートレースは免許とかいろいろなことがあると思うのですが、こういったものに切れ目なく育成して、活躍して、リタイアしていくというこの絵の中で、やはり今後、人が減っていきますので、この中期基本方針でも育成に力を入れられるということではございますが、全国の高校とか大学とかの選手とプロの連携みたいなものが、この中期基本方針の中で具体的にどのように進められていくのかなということは、大変興味を持って拝見させていただいているところでございます。

もしも何か今、特に次の第3次中期基本方針で、この辺りでこれまでになかったもの、もしくは、より強化されようと思っていच्छるところがあれば、教えていただければと思います。

以上です。

○山本委員長 ありがとうございます。奥野美奈子委員からは、大きく2つあったかと思えます。先ほどの認知度調査については、詳細を少し補足していただきたいということ、それに付随して、広報活動の充実について、もう少し補足的なことがないかということが1点だったと思えます。

もう一点は、選手の養成・育成というところで、少子化という流れの中で、子供にスポーツとして認知してもらえるかどうかを含め、説明にも若干あったかと思えますが、諸団体、いろいろなところとの連携、それから学校とかとの連携にもなるかと思えますが、その点について少しお答えをいただければと思います。よろしく申し上げます。

○木戸会長 JKAの木戸でございます。御意見どうもありがとうございました。

今いただきました御意見の中で、認知度向上ですとか、こういったところでその向上になっているかを調べる、アンケートのこと等も御指摘あったかと思えます。

実はアンケートとか調査というのは、定点調査、それから一つ一つの新規事業を行ったような場合には、その都度都度で調査は行っております。

定点のものは定期的に、最近はウェブでやることが多いのですが、実際の競輪場で行うものもございます。

あとは、新たな事業を行ったとき、例えば女子のG I戦を初めて行いましたとか、新たな商品を展開したとか、または開催枠組みを変えたとかといった都度、今回のこの事業についてはいかがでしたかという調査を行います。

その調査だけですと少しもったいないので、その際に、併せて競輪の補助事業であったり、最近のCMですとか、こういうのを見かけましたとか、そういった認知度につながるような、また、社会受容性、この補助の関係等、そこら辺につなげるようなことも一緒にお聞きしております。

ここらを併せてやっているのですが、これは競輪だけでやる場合、また、オートだけでやる場合、それから補助事業などですと両方共通のような形をとっておりますけれども、そんな形のものを取りながらどのように変化していったか、これからもしっかり見ていきたいと思っております。御指摘どうもありがとうございました。

それと、選手の養成につきましては、それぞれの担当の統括役からお答えさせていただきますと思います。

○浅野統括役 失礼します。JKAの浅野と申します。どうぞよろしく願いいたします。

御指摘のように、少子化などの理由で、中高生の自転車競技者は減少傾向にございます。クラブ活動の運営とか高校生の競技大会の開催など、既に各施行者さんが積極的に取組を実施されておりますけれども、この環境変化に対応して、さらに競輪が裾野拡大の拠点になるような活動を行っていきたいと思っております。

具体的には、部活の地域移行なども示されていることから、競輪場は非常に安全にトレーニングできる場所ということでございます。ここを有効活用して、まずは自転車を楽しんでもらう取組を、競輪選手の方であるとか、地域のロードレースチームであるとか、御協力してもらいながら取り組んでいきたいと思っております。

また、スポーツの各団体へのアプローチも積極的に行っております。資料にもありますように、野球ですと独立リーグであるとかアイランドリーグなど、現在ナショナルチームにいる選手もここから出た選手もいるところでございます。また、高校への出張説明会で

あるとか、ほかにも体育系の学生が集まる企業説明会は、今もやっているのですけれども、今後ともさらに積極的にやっていきまして、競輪選手という職業を広く世の中に認知向上をアピールしたいというように取り組んでまいりたいと思っております。

以上になります。

○安統括役 オートレースの担当をしている安と申します。

オートレースの選手育成に関しましては、オートバイという特殊な乗り物を使いまして、さらにアマチュア競技がないというのが競輪と大きく違うところでございまして、先ほど奥野（史）委員もおっしゃっていましたが、バイクに乗っている人口も減っている中で、まずは応募者を確保しなければいけないということで、やはり親和性の高い、サーキットでバイクに乗っている方に対する募集活動ですとか、あと、運動能力が高いと思われるような体育大学での就職活動としての選手応募、そういった活動を競輪も含めて今協議をしてやらせていただいている状況なので、まずは先ほど資料にありましたように、受験者数を落とさない努力をまずしていく中で育成し、強い選手をつくっていききたいというのが大きなところでございます。

以上です。

○奥野（美）委員 ありがとうございます。例えば、競輪では、学校や部活移行というお話がございましたが、恐らく世間一般の人の目からすると、こういったところに連携をされているとかというのが、すごくプラスメッセージでとても伝わるのではないかなと思っております。特に高校生、中学生、競輪はということになるのかも分かりませんが、地域とか社会の見る目が、そういうところに本当に優しく見てもらえるのと、理解が広がるのが大きな発信になるのかなと思っております。

その結果、社会還元がされているというのがプラスアルファで発信できると、よりいいのかなと思っております。ありがとうございます。

○山本委員長 どうもありがとうございました。先ほどの選手の育成、スカウティングということにならないかもしれませんが、他のスポーツをやっていた方というのは、競輪では枠があります。そのような適正枠とか、そういうことでも養成していると思いますので、また次のときにいろいろとお話いただければと思います。

では、引き続きまして、藤岡委員、お願いいたします。

○藤岡委員 山本委員長、ありがとうございます。藤岡でございます。

オートレース、競輪、それぞれ御説明いただきまして、ありがとうございます。競輪に

つきましては、取組が確実に実を結ばれているということが見えるかなと思います。

競輪について1点だけ、後でお答えいただきたいのですけれども、会場がいろいろな形で利用されるということは本当に素晴らしいことだと思います。しかし、野球場を一般の方が幾らで借りられるのかというと、意外と簡単に調べることができますが、競輪場が借りられるのかどうか。そういう告知がされているのかどうか。もし分かれば、教えていただければなと思います。

一般の方が借りれる、ということが一般的に広まっていれば、先ほど御説明がありました自転車のクラブ活動であったり、また競技として自転車を楽しまれる方よりも、愛好家として自転車に携わられるサイクリストの方が多いいと思います。そういう方々が利用できる場として活用ができるのではないかなと思いました。

私自身がモータースポーツの出身でございますので、オートレースがすごく気になります。実際、オートレースの形態によるアマチュアスポーツはありませんが、オートバイを基準にするとモーターサイクルスポーツとしてのアマチュアスポーツはあります。今、その連携ができてないのかなというのはすごく課題だと感じました。

先日の説明会の中でも、筑波サーキットさんで連携し告知活動をされているというお話もいただきました。筑波サーキットさんが駄目だということではないのですが、都市部/関東での開催には当たるのですけれども、鈴鹿サーキットだとか、富士スピードウェイだとか、メジャーサーキットからすると、会場の規模感やイベントの動員規模も違います。より多くのサーキット場、大規模イベントの会場でも連携いただければと思います。

また、アンケートでは、オートレースのリブランディングに関するアンケート調査結果を出していただき、リブランディングの方向性をお示しいただきました。このアンケート自体、「オートレースでなく、ほかの公営ギャンブルです」と言ったとしても違いがないようなアンケートでした。オートレースとして“ここが課題なのだ”というところを掴まれているのかちょっと疑問に思いました。

公営ギャンブルの中で“当たりやすいもの”と“当たりにくいもの”があるようにも聞いてはいます。そういう比較検討がされているのか、教えていただければなと思います。

先ほどもお話をさせていただいた競輪は、すごく成功している事例です。競輪で取り組まれたリブランディングの一環として、ガールズケイリンは、コスチューム変更されています。オートレースにおいても選手に関する部分で、リブランディングは進んでいるとは思いますが、お客様目線でどの様に進んでいるのかが、すごく見えづらいと感じます。

オートレースは前提として、なじみのない競技です。先ほどお話しが出た選手の推し活という形でお客様を引きつけるとなると、選手がお客様の目を引くコスチュームになっているのか、出で立ちが重要になってきます。今、プロ野球にしてもサッカーにしても、どのスポーツも移動する上での公式ウェアというものが決まっていたり、常に周りから見られるという教育がなされていると思います。その様な教育がどのようになされているのか。

更には、SNSでの炎上防止をする上でも、いろいろな勉強会をされているというのをお伺いしましたが、当然炎上は駄目なのですが、セルフブランディングでの教育というのが、今私どもモータースポーツにおいても積極的に取り組んでいるところになります。今、講師としてオリンピックでの選手教育に携わっている方に御協力いただいたりもしております。プラスの面が出ていけばマイナス面がへこむというのと同じで、プラスのセルフブランディングがしっかりできれば、マイナス面はへこむとの考え方です。選手への教育がどの様になされているのかをお聞かせいただければと思います。

簡単ではございますが、以上でございます。

○山本委員長 ありがとうございます。藤岡委員から出ていましたのは、いわゆる競輪場自体の有効利用という点で、どうやって一般の方がお借りすることができるのか、それが費用としてどうなのかと。これはオートレースも同じかと思いますが、その辺りは情報提供いただければと思います。

それから、オートレースの選手のいろいろな連携活動というところは御意見ということで承ります。私が言うとおかしいですね。そういう部分になったかと思います。

それから、アンケートのことにつきましては、オートレースだけではなく、特に競輪でも同じ公営競技の中でも何かあったのかみたいところは、もう少し補足していただければと思います。

それから、オートレースで、選手がふだん移動しているときにどうなのかと。これもある意味では競輪も共通ではないかと思いますが、そのような選手の教育というか、その面について説明していただければと思います。では、お願いできればと思いますが。

○今成理事長 競輪場の貸出しの件は、全輪協からお答え申し上げます。御質問ありがとうございます。

例えば、ホームページで競輪場を貸しますというように完全オープンでやっている例は恐らく今ないと思います。それは競輪が開催しているときと、場外車券販売をやっている関係もあって、完全に空いていないとなかなか難しいというのが1つあるのと、恐らく貸

出しするときに、公営の競輪場の場合は、条例に基づいた処置が必要になりますので、その中で減免できれば無料だし、減免できなければ有料というのは、個別の施行者の判断だと思います。

ただ現実には、高校生の練習場として貸したり、あるいは珍しい例としては、いわき平というところで競輪甲子園というのをやっています、昨年度は北日本だけの、要するに学生の、これから競輪選手になりそうな方を中心に、まさに甲子園をやったわけです。非常に好評を博したということで、今年は全国に広げまして、沖縄からの選手もいたりしましたので、これは施行者が主催ですから無料ですけれども、そういった形で、様々な展開を図っているという状況でございます。

以上です。

○秋谷事務局長 オートレース場についても競輪場とほぼ同じで、利用について一般的に公募はしていないという状況でございます。ただ、各市のイベントで、個々に交渉してレース場を使わせているというのが実態であって、有料、無料については、先ほどもありましたけれども、条例に基づいて有料にすることはあるのですけれども、恐らく個々のレース場ではお金を取っていないのではないかと考えております。

以上です。

○山本委員長 ありがとうございます。アンケート関係などについてお願いできますか。

○安統括役 アンケート関係について、特にオートレースで御指摘があったと思うのですけれども、知られていない・認知度が低いということが一番のネガティブ要因につながっていると。要は知らないので、オートレースは全国で5場しかございませんので、特に公営競技をやられている方であっても、オートレースを見たことがないという方が結構多くいらっしゃいます。

ただ一方で、インターネット販売による売上げなのですけれども、アンケートを取りますと、レース場に行ったことがない、インターネットから入って、インターネットで完結しているお客様は割と多くいらして、そういったこともあって、認知度が一番足りないことがオートレースの本当のアキレス腱とっております。

なので、そういった部分で、インターネットで入ってきたお客様に、まずはレース場に来ていただいて、オートレースを生で見ていただくというのが今回の中期基本方針の中の大きな柱になっていますので、そういった部分を地道にやって、認知度を上げていくことによって、ネガティブな部分についても、多少なりとも解消していけるのではないかと

う思いがあります。

以上です。

○山本委員長　ありがとうございます。引き続いて、選手関連についてお願いいたします。

○木戸会長　特にこれを着なければいけないというのはないのですが、選手の方には、やはり公営競技の選手として常に見られる立場であるということは、選手訓練を通して伝えております。

今、夏が暑かったりしますので、開襟シャツとかでも構わないのですが、ちゃんと襟のついたシャツで、外の方から見て清潔感のあるような服装というものをモデルとしてお出ししております。ネクタイを必ずというわけにはいかないのですが、清潔感のある服装で、外から見られても見苦しくない形という形でお願いしております。

個別の選手会さんの御指導については分からないので、お願いします。

○山本委員長　ありがとうございます。中野会長から何か補足はございますか。

○中野会長　特に養成所の頃から、選手になるに当たって、ファンの方に対して見られているということを意識しなければならないということはすごく指導されていますので、ファンの方に見られても恥ずかしくない、選手というのは、自分が知らなくても相手が知っているということがよくありますので、その移動の手段以外でも、プライベートでいるときでも、そういう部分を意識しながら、個々でしっかりやっています。

自分が現場で見えても、それはいかなものかというような服装をしている方は今まで見たことがありません。

以上です。

○山本委員長　ありがとうございます。私からですと、最初の競輪場の有効活用というお話でしたけれども、今日のオートレースの資料の13ページに似たような例があります。これはオートレースの施行者として主催しているかどうか私も分からないのですが、このようなイベントをやるという場合に、例えば市のイベントと関係あるみたいなことだと、ほぼほぼ無償みたいな形でお貸ししているということが結構あると思います。ですので、地域のいわゆるお祭りですとか、そのような会場として毎年使われているような競輪場、オートレース場は幾つもあります。

あとは地域の方々がいろいろな集まりを開くですとか、そのような場合の、例えば会議室ですとか、そのようなところの活用もほとんど無償に近い形だと思います。先ほどは自

転車競技のお話を今成様からお話しいただきましたけれども、そういう地域の方々が利用するという意味では、かなり行われていると思っております。

それから、選手宿舎につきましても、いわゆるスポーツ団体ですとか、それから子供の団体などの合宿に使われて、これは完全に無償というわけいかないでしょうから、実費などをいただいているという取組をしている施行者もあると聞いております。

では、お願いします。

○須藤室長　あと1点、補足ですけれども、例えば冬季の競輪場が雪で使えないという場合には、例えば函館競輪場などでは、スケート場として一般の市民に開放するという例もございますので、それぞれ工夫しているというような状況になっています。

○山本委員長　ありがとうございました。施行者が自治体ですので、その地域に貢献するという意識は非常に高く活動されているのだと思います。どうもありがとうございました。

では、引き続きまして、松田委員にお願いしたいと思えます。

○松田委員　どうもありがとうございます。今回の第3次中期基本方針のコンセプトとして、競輪事業においては、事業基盤の強化と社会受容性の向上という大変分かりやすく、かつ力強いメッセージが打ち立てられていまして、これは関係する皆様方にとっても共通して方向性を確認できる、とてもいい表現だと思っております。

1つ確認ですが、一方でオートレースは、ミッション、ビジョンで4つの柱は示されているのですけれども、競輪のようなぎゅっとコンパクトにしたコンセプトの表現というのが見当たりませんが、何か理由があるのか。内容を拝見していると、大変近いような気もいたしますけれども、2つの事業はそれぞれ成長のステージも違うので、あえて記載していないのかどうか、その辺りをお聞かせいただけたらと思えます。

この社会受容性の向上を中期基本方針で推進していく上で、どちらの事業も社会課題に対する敏感な対応と申しますか、把握と申しますか、そこが重要になってくると思えますし、かつ、競輪事業だからこそ、オートレースだからこそ取り組める社会課題というのをより鮮明にしていくことで、ブランディングにも貢献できるのではないかと考えているのです。

したがいまして、3点、社会還元や地域の活性化という視点と、スポーツ性をもっと前面に出していくということ、3つ目に、ずっと懸念されていた女性アスリート等の位置づけみたいなどころから少し質問させていただきますと、社会還元や地域の活性化は本当に

いろいろな取組をされていますし、徐々に認知も高まってきていると思うのですが、やはり施行者の方々の中で、その考え方であるとか成功事例とかをもっともっと共有していくことができるといいのではないかと考えています。

例えば、事例として、広島競輪場のリニューアルの情報をいただきました。希望が持てるすばらしい施設だと思うのですが、なぜ広島がうまくいったのかという要因が、ほかの自治体でも共有できる汎用性、ないしは再現性があるものなのか、広島ならではの理由があるのかとか、その辺りもお聞かせいただくと、さらにほかの自治体にもどう広げていったらいいのかということが分かるので、ありがたいなと思いました。

それから、2つ目のスポーツ性のところについては、先ほどから話題に出ているようなアンケートにも関連するのですが、競輪の資料の8ページにあるイメージ調査の項目の中でも、スポーツ観戦として楽しいというところに、競輪購入経験者の方がとても高く評価されていて、一般の方とのギャップがあるので、ここを掘り下げようという、とても分かりやすい着目点が結果から出ていると思うのですが、このように、オートレースもより細かい分析ができる状況なのかどうかというところが気になるのと、競輪がスポーツ関連として楽しいと購入経験者がおっしゃっているのは、もう少し掘り下げるとどうということなのかというところのリサーチがどのように進んでらっしゃるのかということをお聞きしたいなと思います。

それと、少し視点は違いますけれども、オートレースと競輪の顧客の重なり具合があるのかないのか。あるとしたら、どういう層の人たちがどっちもやっているのか。あるいは、競輪からオートレースの魅力、あるいはその逆を共有するような可能性があるのかどうかということも、そのスポーツ性を前面に出していくという上で、お聞かせいただけたらなと思います。

3つ目の女性アスリートにつきましては、これまでも、特に競輪のほうはかなり努力されて、今回は賞金の額もかなり上がっていますし、職業としても魅力が増えていますし、環境もよくなっていると思います。しかも、競輪というスポーツを、ほかのスポーツのセカンドキャリアとしても推奨していこうという動きもなさっていらっしゃるの、女性の様々なスポーツのアスリートの方々から見たときに、競輪というスポーツがジェンダーの格差が少ない、あるいはその解消に前向きに取り組んでいる分野であるということ、もっとほかのアスリートの方々にもお伝えしていくことができるといいのではないかなと思いますし、オートレースの女性選手の方々と、競輪の女性選手の方々と交流などがどの

ようになっているのかというところも少し関心がありますので、お聞かせいただけたらと思います。

以上でございます。

○山本委員長 ありがとうございます。松田委員からは、今回、広島競輪がリニューアルしたばかりですけれども、このような、いろいろな新しい公営競技の施設というか、そういう部分の取組になったきっかけ的なところ。あと、ほかの競輪場、施行者への横展開の可能性みたいなことが1つありました。

それから、スポーツ性というところで、今回のアンケート調査で出てきているギャップなどについて、先ほどもありましたけれども、オートレースでももう少し深く調べているのかどうか。あと、競輪・オートレースのお客様の層というのは、ある程度重なるのかどうかというようなところ。

それから、スポーツ性というところで、今回のアンケート調査で出てきているギャップなどについて、先ほどもありましたけれども、オートレースでももう少し深く調べているのかどうか。あと、競輪・オートレースのお客様の層というのは、ある程度重なるのかどうかというようなところ。

○今成理事長 全輪協からお答え申し上げます。

広島競輪場の特徴といたしましては、ほとんどの施設を民間が建てるという、いわゆる民活を最大活用した競輪場でございます。これまでホテルだけを民活で建ててもらうとか、そういった例はあったのですけれども、これは完全民営化。そうなりますと、どうしても契約期間が長くなります。それは民間が収益で賄う必要があるからでありまして、そうしますと、例えば議会が反対したりするとなかなか進まないわけです。市の内部の意思決定と議会の賛同の2つがあって初めてできた施設かなと思っています。

施設に関しては、もう施行者と共有してしまして、あとは施行者が近々現場に行くと思うのですが、そこでじっくりと現場を見ますので、こういったデザイン・ビルド・オペレーションの全面民活の方式というのが、今後、恐らく広がっていくだろうと考えております。

○山本委員長 ありがとうございます。引き続きまして、調査の関係についてお願いします。

○木戸会長 JKAです。先にスポーツ性について、先ほど資料の中でも、スポーツ観戦として面白いという辺りのお話もいただきましたけれども、競輪のほうのアンケートの

内容からお話ししますと、このアンケートについては、インターネットとオンラインのインタビューで、全国対象に1,000サンプルほど取らせていただきました。これは最近、2021年以降に始めた若い方のアンケートを取っているのです。

一部だけ申し上げます。競輪の魅力という点を聞いて、ここ3年間の変化なのですが、2022年は「少しの金額でかけても楽しめる」というのが1位だったのです。次の年、23年度は「予想するのが楽しい」というのが1位でした。24年になると、「レース展開を見る」。要するに、レースを見るのが楽しいというようにだんだん変わってきているのです。

あと、競輪のイメージについてもそうでした、3年前からいくと、1位は「ギャンブルとして楽しめる」と。先ほどの「少額でもかけて楽しめる」というのと似ているのですが、先ほどの「予想する楽しみ」というのがあって、そのイメージについては、23年は「当たりやすい」というのがあって、24年も「当たりやすい」が来ているのですが、実は23年、24年で2位、3位の辺りが変わってきて、最近では、2位で「当たらなくても楽しい」と。3位では「スポーツ観戦として楽しめる」という辺りがあって、少しの金額かけて楽しんでいただいているのですけれども、万が一それが外れても、レースを見ることによって、当たらなくても楽しいとかという辺りが出てきているのです。

多分ここら辺は、レースの展開を見て、スピード感ですとかスポーツ性というところに共感をいただいているのではないかと思うのですが、さらにもう少し突っ込んだ調査をというところについては、これから先の課題とさせていただければと思います。

オートレースは、こういった意味でのスポーツ性ですとか、そこら辺のアンケートというのは多分これからのことと思うのですが、今はまだどちらかという、その認知度向上に資するような形で、どういうものかということ、まずは今々の現状がどうかという辺りの調査がメインだと思います。

何か補足があれば。

○安統括役 御説明の中で、オートレースの中期基本方針の目標が競輪ほど明確になっていないのではないかと御指摘をいただいた件です。競輪が大きく売上げを伸ばしてメジャー化していくという目標になっているのですけれども、いかんせん、オートレースは競輪の10分の1も売上げがない中で、まずは競輪のように、経営基盤を強くして伸ばすという大きな目標。背伸びしても行けないという思いがまず大きくて、一番どん底から徐々に成長している過程なので、まずは5場が安定して経営していく状況を5年間で徐々

につくっていくのがまず最優先かなというところをごさいますて、競輪ほど目標を大きく記述できないところの事情があるかなと思っております。

それと、競輪とオートレースのお客様の相互関係の御指摘もあったと思うのですが、競輪とオートレースは特に専用場外ですとか、双方で両方売り合っていたり売場というのが結構普及しておりますて、そういった意味では、お客さんは自分の嗜好に合う競技を買うのがメインになるのですけれども、競輪の売場でオートレースも売っているなという認知はしていただけたらと思いますので、小さいところから知っていただくことから始めて、徐々に広げていきたいと思っております。

また、先ほども申しましたが、インターネットで入ってくるお客様がいらっしゃるんで、特にミッドナイト競輪のない日にオートレースのミッドナイト競走をやりますと、通常では想像できないほどの売上げを示すことがございます。競輪をメインで買われている方が、この日は競輪がないので、一定数がオートレースも買っていただける状況があると思えますので、そういったところを徐々に掘り下げて、お客様をオートレースにも目を向けていただけるような努力を続けていきたいと思っております。

以上です。

○山本委員長 ありがとうございます。松田委員から何かございますか。

○松田委員 どうもありがとうございました。広島の方は、ほかの施行者の自治体は議員の方々も御一緒に行かれると、より効果がありそうですね。ありがとうございます。

女性アスリートの件は、もし何かございましたらお願いいたします。

○安統括役 JKAです。競輪選手とオートレース選手相互に行っていて、ファンイベントですとか、そういった形は適宜しているのですけれども、大々的にそれをメインで張るようなところは今なかなか実施できていないと思えますので、やはり大きいレースのときに相互に選手に来ていただいて、場間の協力関係を築いているところもありますので、そういったところを補完していくような形で、徐々に広げていければなと思えます。

○松田委員 どうもありがとうございました。

○山本委員長 どうもありがとうございます。先ほど民間で整備がということですが、現状、ほかの競輪場も大分いろいろな整備が進んでいるところですが、オーソドックスなものは、基本的には施行者の収益をもってその施設整備に充てていくということですので、ほかのところでは自前というか、いわゆる収益をもって施設のリニューアルなどを行っている例のほうが、まだ今のところは多いです。

民間を使うという意味では、民間企業のスピードの速さというか、そのようなところ。ちょうどPPP、PFIの関係と似通ったところがありますけれども、そのメリットを広島の場合は大いに活用されているのではないかなど。一部分でしたけれども、玉野もそのような状況だったかと思います。

ですから、それをそれぞれの置かれている自治体さんの環境、その収益の状況ですとか、立地条件ですとか、そういうところを勘案して、どちらを選ばれるかということで、これからは幾つか出てくるのではないかと思っております。

私から勝手ながら補足させていただきました。

○松田委員 どうもありがとうございました。

○山本委員長 どうもありがとうございました。では、引き続きまして、山下委員、お願い申し上げます。

○山下委員 ありがとうございます。私も今年から就任させていただいて、まだまだ不勉強というか、事情が分からないことがたくさんあるもので、なかなか的確にコメントが難しいところありますけれども、この中期基本方針を見た印象とか、逆に素人ながら、こういう気づきというか、考え方とか捉え方ということで合っているかということの御意見をいただきたいところなのです。

まず、余談ですけれども、最近、テレビドラマで「ロイヤルファミリー」という競馬のドラマがありました。かなり評判がよかったです。私も1回か2回しか競馬場に行ったことないのですけれども、全く素人ながら、とにかく競馬という世界の深さ、こんなにもいろいろな方が関わっていて、また、馬の血統みたいなことが影響するなどということも全く知りませんし、馬主の世界とか、それに関わる方々、競走馬になっていくプロセスとか牧場の話とか、これはJRAの全面協力で撮影がなされて、スター選手もちょこちょこ出てきて、最終回もそんな感じで盛り上がったドラマなのですけれども、毎回冷や冷やしなからという感じで、やはりバックストーリーというか、スポーツとしての面白さというのは、そこに关わるスタッフとかいろいろな人の思いを背負って走っている選手たちとかという、そのドラマチックなところが特に感動する時代になったなという感じがします。

これは、メジャーリーグとかを見ている、裏側にある、山本選手を支えるトレーナーの方の話だったりもそうですけれども、そういうところに多分みんな飢えていると思うので、先ほどのアンケートで、競技として楽しいとか、負けても楽しいということの裏側には、恐らくそのゲーム展開だけの話ではなくて、そこに关わる様々なうんちくとか、そう

いったところの面白さなのだと思うので、これはこれからどうやって見せていくのかというの大事なポイントで、キャッチーなPRとか、テレビCMで話題性があるようなものをつくるということも大事ですが、その見せ方は、今後大いに工夫する必要があるなと思いますし、私も素人ですけれども、逆にそこにもものすごく関心があります。

競輪とオートレースなのですけれども、競輪に関しては非常に大きな事業ということで、細かいところで特に私がというのはないのですが、これを見てよく分かったのが、2030年までに2兆円という目標が立てられていて、それに向かってどういう取組をしていくのか。今の取組の延長に本当に2兆円という目標があるのかということ、恐らくいろいろとハードルがあるのだろうなということで考えたときに、この資料の中でもありますけれども、2028年というマイルストーンが物すごく大きな位置づけになってくるのだろうという感想を持ちました。

2028年をどう迎えるかによって、2030年の2兆円というものになってくるのだと思うので、今の資料では、方向性みたいのが少しだけ触れられていますけれども、ここは相当にいろいろな取組をやっていただいて、競輪80周年とかロサンゼルス五輪もありますし、一気に新しい世界に向けて競輪が行くということなのだろうと思います。

いわゆる賭けのための競技ということではない、ある意味のエンターテインメントとしての、日本が世界に誇れる日本発祥の競技文化というものを、ここで世界に向けても発信していただく大事な年なのだろうと思います。

その上で、例えばですけれども、これははっきり言って素人的な発想です。そのような新たな賭けというものの楽しさもいいのですけれども、そうではないスポーツとしての見せ方もここでしっかり見せつつ、こんなこと無理だ、素人発想とおっしゃるかもしれませんが、競輪はあくまでも個人スポーツで、賭けという意味では、個人のパフォーマンスに対して賭けますが、例えばS級の選手、上位のトップ選手があたかも4人ぐらいのチームのように見せるとか、例えばそれでチーム名みたいなのがあって、そのチームそのものを応援するというような、新しい見せ方みたいなことへのチャレンジとかも、例えば競輪80周年にトライアルでやってみる、そうすると、何かかっこいい、キャッチーなチーム名みたいなのがあったらいいと思うのですけれども、そういったチームに属すということが1つのステータスになるような、例えばそういうことだったりとか、これは勝手な素人の発想ですが、新しい発想があってもいいかなと。

2028年は、初めて競輪に関わる人たちを増やすような入り口をここでしっかりつくって

いく。それはインバウンドも含めてだと思いますけれども、あとはこの年、2兆円に向けたその成長ドライバーになっていくような新しいフォーマットとか、今のチーム制みたいなものそうかもしれませんし、2028年に向けて何かお考えがあったら、ぜひお聞かせいただきたいということです。

オートレースに関しては、私は素人ながら可能性を非常に感じます。何かいろいろなメッセージ性があるなと思っていて、まだ私もリアルに拝見していないので難しいですが、動画とかをかなりたくさん見させていただいて分かってきたことは、選手がバイクを組み立てるのです。あれ、全部自腹でお買いになっているとお聞きしましたが、選手たちが自分でバイクを組み上げて、そのバイクに乗って争うというのは、私からするとオートスポーツというよりは、格闘技に近い世界。機械を制する者が勝者になっていくみたいな感じで、何となくグラディエーターみたいな感じなのです。

AIの時代で、自動運転みたいな時代の中で、機械を制する者が勝者になっていくというような、何となくそのような勇気をたたえていくような、何か新しいもの。そうすると、オートレース場がコロッセオみたいな見え方にも見えてくるので、機械を制するグラディエーターたちみたいな、これも完全に素人発想ですけど、そのような産業立国日本のスポーツに昇華させていった、機械が勝つか、人間が勝つかみたいな、そのような新しいコンセプトをつくったら、これはすごくわくわくするなと思います。女性の方ですごいレーサーの方もおられるようですけど、そういう新しい見方をしていけば、インバウンドには、実はオートレースのほうが親和性があると個人的には感じましたので、ぜひこういった私の勝手な妄想に近いですけど、それについても、ぜひ御感想をいただければと思います。

以上です。

○山本委員長　　ありがとうございました。非常に斬新な視点からいろいろとおっしゃっていただき、ありがとうございます。

私も「ロイヤルファミリー」を見ていましたけれども、なかなかこのようなストーリーを競輪で作ったら、オートレースで作ったらどうなるのだろうなと思いながら見ているところですが、いい答えが出ません。この点につきましては、今、業界のほうで若干考えられているようなことがもしあれば、補足いただけるところでお願いできればと思います。

それから、もう一つは、団体戦のようなお話とかインバウンドも含めた、多分これ、競輪でいうと80周年に向けて、何か記念的ないろいろなことが行われるのではないかと思わ

れますけれども、その辺りで、この場でお話できるような取組とか構想とか、もしございましたら、その辺りを補足していただければと思います。では、木戸会長ですか、お願いします。

○木戸会長 山下委員、どうもありがとうございました。

確かに「ロイヤルファミリー」のようなドラマ、いずれは競輪・オートでも作りたいなと。

先ほどから御指摘の、またお話にもいただきました、今後5年間の中で、おっしゃるとおり、2028年というのは、私どもとしても非常に大きな節目だと思っております。ここは80周年であり、今の基幹システムも新たなものになるとすると、システムの今までネックで動けなかったことが、また実現も可能になってくるということもございますので、この2028年に向けて、もろもろ調整していきたいと思っております。

また、オリンピックの年でもありますし、今までも御紹介しました、競輪選手が今、国際舞台で非常に活躍しております。既に2年連続で女子選手が世界チャンピオンになっているというような実績もあります。そして、競輪種目では、実は世界戦でメダルもずっと取り続けているような実績もありますので、80周年に向けてというか、この年だけではなくて、先ほどの御指摘のとおり、ここに行くまでの間でどのようなアプローチ、また、アピールができるかというところを組み上げていきたいと思っております。

その中で、あと上位の選手。レースにおいては、どうしても個々の戦いで車券の対象になるので、それは真剣勝負をそれぞれやっていただくのですが、実は競輪選手は今、男子で2,200名強いるのですけれども、その中の最上位のS級1班、さらにその一番上の9人だけがS級S班という位置づけになっています。レースを御覧いただいた場合には、その選手たちだけが赤いレーサーパンツをはいているということで、こういった方たちは、年末のグランプリに全員出るわけですけれども、そういった方たちが、一般の方にも分かっていたようなPRの仕方というのを考えていきたいと思っております。今の御指摘では、そこら辺については取り組んでいきたいと思っております。

また、その方たちを支えている方というようなお話も今いただきましたので、ここら辺も、次のPR展開の中では入れ込めないか検討したいと思っておりますので、どうもありがとうございます。

○安統括役 オートレースについて、成長性に可能性を秘めているとおっしゃっていただき、非常にありがとうございます。

そういった意味で、私たちオートレースに携わる者、競技としての面白さというのは、勝負できる力は十分あると自分たちは思っているのですけれども、そういった部分のアピール力が確かに劣っているというのがありますので、今御指摘いただいた内容も含め、どういった形が適切にアピールできるかというのを業界内でよく検討させていただいて、反映できるように考えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○山本委員長　ありがとうございました。では、委員の皆様からいろいろな御意見を頂戴いたしました。ここでおおむねいろいろなことを言われておりますけれども、大きく1つは、施設自体をどのように使っていったり、整備をしていったりするかというようなことでいろいろなお話が出てきたかと思えます。

最初に、奥野史子委員からは、暑さのことなどから始まりまして、いろいろな団体などがどのように有効に活用したり、施設の整備がどういう形で行われているかみたいなのところが大きく1つあったかと思えます。

もう一つは、選手の確保、育成みたいところは非常に御関心が高いところであったかと思えます。これはレースを続けていく上では、それが最大の商品でありますので、いただいた意見を踏まえまして、いろいろな取組をまた進めていくということになるかと思えます。

それから、市場調査、アンケートの関係などというところで、これからより深く調査をしていくというような御示唆をいただけたのかなと思えます。

それと、先ほども出ましたけれども、競輪の80周年という節目、それからシステム上も2028 V I S というところで、節目となるいろいろな取組がこれから出てくればと思えます。

結構いろいろなお話が出ましたので、私からは、もう時間も押しておりますので、大きく1点申し上げたいと思えます。

実際、こちらのそれぞれの中期基本方針で、売上げをこれぐらい頑張りますというところで、現実問題としては、開催できる日数はやや上限に来てしまっているという中で、こちらでレースの質だとか、いろいろなプロモーションだとか、そういうことをやりながら、開催数は維持したまま売上げを上げていくということにはなるかと思えますけれども、先ほど説明の中で、例えばランチタイムなどの売上げが非常に上がっているとか、そのような話がありましたが、その辺りについて、もう少し深い話がある程度この中にあるのかどうかみたいなのところを少しお聞かせいただければと思えます。

これは業界というよりも、事務局かもしれませんが、他競技の場合、もう少し日

数をやっているところも、例えばボートレースとか地方競馬などは日数が多いところもあります。これは選手の需給問題があるので、一概に競輪やオートレースでそのまま適用することはできませんけれども、経産省の立場としては、例えばどの辺りまでそういうことが可能なのかと。現状の法律上はどうあって、可能性としてはどのように思われているかみたいなことを少しお聞かせいただければと思います。

私からは以上でございます。

○木戸会長　ありがとうございます。おっしゃるとおり、実際、開催のボリューム、日数、レース数、こちら辺は正直、かなり上限に近いかなと思っております。

他の公営競技のお話も出ました。他の公営競技と比較すると、競輪は1場当たりの開催日数はかなり低い状況になります。ボートレースの3分の1ぐらいになろうかと思います。これは、やはりレースにおける選手の稼働ですとか、また1日に2回走れる競技と、競輪の場合には1日1回という形になっておりますので、そこら辺の差もかなり大きいかなと思ってます。

ただ、今そこら辺、売上げがいいからといって、すぐに選手をどんどん増やせるわけでもございませんので、やはり一定のレベルの選手たちに活躍をしていただく必要がありますから、年間、養成できる数というのはどうしても限られると思います。

となりますと、御指摘のとおり、顧客のエンゲージメントのところでもございましたけれども、よりお客様に楽しんでいただける、そういった競輪・オートレースにして、多くの方に買っていただけるような商品ラインナップを提供していきたいと思っております。

お昼の時間に増えたというのは、実際に昼休みに結構インターネットで入ってくる方がいらっしやって、また、そういった若い方たちが入っているというのは、過去のデータから既にありましたので、今、7車立ての買いやすいレースがかなり増えていて、昔は9車立てであったので、お昼に7車立てをちゃんと入れようみたいな話があったのですが、今そこら辺の時間帯も7車立てレースをもう既にやっています。そこらの影響もあって、より増えているのではないかなとは思っております。

○山本委員長　先ほども山下委員のときにもお話しされたかもしれませんが、80周年の関係とかについて、もう少しお話しいただければと思います。

○木戸会長　80周年の周年事業の中身については、今まだ検討中でございます、申し訳ありません。ここで申し上げることはできないのですが、先ほど来ありますように、システムの更新ですとか、また、オリンピックもございますので、システムが変われば提供

できる内容も変わってまいりますので、そこら辺はしっかり出していききたいなと思います。今は申し上げるわけにいかないのですけれども、幾つか開催の枠組みに関係することも対応できるかなと思っています。

また、オリンピック等を含めてのPR活動は、実際に1年前ぐらいからになるかと思えますけれども、全体の機運の高まりに合わせて、しっかりと打っていければと思っています。

○山本委員長 ありがとうございます。オートレースのほうでは、特に何かありますか。この5か年の間について。

開催数が上限だと思うので、それを保ちながら売上げを上げていく方法というか、リブランディングも含むと思うのですけれども。

○安統括役 開催日数の上限については、実際、省令上のほぼ上限まで使っている状況なので、ただ競輪と同じように、選手をいきなり大きく増やすわけにはいきませんし、稼働状況ですとか総合的に判断しなければいけないので、これ以上増やすというのは、なかなか一朝一夕には非常に厳しい状態かなと思っています。

○山本委員長 ありがとうございます。オートレースは上限に来ているということなのでですね。分かりました。ありがとうございます。

その辺り、少し補足していただけないでしょうか。

○須藤室長 他競技との関係で言いますと、木戸会長からもお話がありましたとおり、競艇とかは一日に2回走れるということもありまして、レース数としてはどうしても限界があるというようになっています。

競輪の場合は、選手の人数ということもありますけれども、レースを支えている審判の数ですとか、検車の体制ですとか、そういったことも考えますと、今現状はほぼほぼいっぱいな状況になっていると考えております。ただ、それを増やしていくということであれば、また業界の皆さんとちゃんと意思合わせをしながら進めていくことになるかと思えます。

○山本委員長 ありがとうございます。ちょっと抽象的なお話をしまして、すみませんでした。

それでは、時間もかなり来ておりますので、本日は委員の皆様方には有意義な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

それでは、競輪及びオートレースの第3次中期基本方針（案）につきましては、当委員

会として了承いたしました。来年度以降、5年間にわたり着実に取り組んでいただくという事でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ありがとうございます。それでは、そのように決したいと思います。

それでは、最後に、田中審議官から御発言をお願いいたします。

○田中審議官 経産省の審議官の田中です。今日は長い間、御議論ありがとうございます。また、委員の皆様にも様々な視点から、大変有意義なコメントいただきまして、本当にありがとうございます。ほかの競技、新しい視点、そういったことを皆様からこういった場でいただいて、さらなる発展につなげていくというのは大変重要な場だと思いますので、心より御礼申し上げます。

本日、御了承いただいたことをもって、恐らく今月末には業界において正式に決定がなされると承知しておりますので、ぜひ引き続き業界の方もよろしくをお願いします。

今後とも、このレースの公正、安全はもとより、ギャンブル等依存症対策をはじめとして、健全で信頼される事業運営確保に行政としても取り組んでまいりますので、ぜひ引き続き連携してやっていければと思います。

今日はありがとうございました。

○山本委員長 ありがとうございました。それでは、最後に事務局からお願いいたします。

○須藤室長 本日は御審議ありがとうございました。次回の予定につきましては、山本委員長と御相談の上で、改めて御連絡させていただきます。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

○山本委員長 ありがとうございました。それでは、以上をもちまして第21回産業構造審議会車両競技小委員会を終了させていただきます。

本日は、年末の御多用のところ、長時間にわたりいろいろな有意義な御示唆、御議論をいただきまして、誠にありがとうございました。これをもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

——了——